

平成25年度教師海外研修(ガーナ) 研修報告書

学校名	岐阜市立境川中学校	氏名	割石 裕美子
-----	-----------	----	--------

1. 印象に残る写真2点

●「ガーナはどこ??」



アカチの小学校で日本の場所を聞きました。日本どころかガーナの場所さえわからない子供たちに、自分の専門教科(社会科)の重要性や意義を感じた瞬間でした。

●「誰もがスタイル抜群! ガーニアン」



ガーナの女性はスタイルがいい!! 小さいころから頭の上に物をのせて運ぶから、姿勢がいいのかな。それにすごくおしゃれ! アフリカへの印象が変わった研修でした。

2. 現地研修に対する各自の目的とその達成度

(特に、現地研修の経験を生かす授業実践に資することについて)

この研修の目的は3つあった。1つ目は、なかなか行くことの出来ないアフリカへ行って見たかったこと、2つ目は、旅行ではなく開発教育という視点で学びながら海外を見てみたかったこと、3つ目は、自分の今後の生き方を考えるきっかけにしたかったことである。

1つ目の目的、「アフリカ」は本当に魅力的な場所だった。個人では見ることもない貧困地域から地元の人の暮らし、ハイテクな地域と、アフリカの様々な顔を見ることができた。

2つ目の目的、「開発教育という視点」では共に研修に参加した仲間が様々な視点を私に与えてくれ、勉強になった。また事前に何を教材化するかを明らかにして研修に臨んだので、とても有意義になったと感じる。

3つ目の目的、「生き方」については、研修を通して JICA ボランティアの方、JICA 専門家の方、企業の方など様々な人の話を聞くことができ、それらすべてが私の人生の参考となった。私も世界に貢献をしたいという強い思いをもった。

3. 訪問国から学んだこと（気づいたこと、わかったこと、大切に思ったことなど）

（1）柱1「訪問国に肯定的に出会う」という観点から

アフリカに行ってみたくはけれど、「黒人」はなんだか怖い。これがガーナへ行く前の気持ちだった。しかし、研修が進むにつれ、ガーナの人に親しみと愛情をもつようになっていた。ガーナの人々は思う以上に優しく、思いやりにあふれていた。また、「国の発展の遅れはその国民の能力だ」という私の偏見をなくしたのは、JICA 専門家の「情報のなさがその国の発展を遅らせる。情報さえあればガーナの人々はすごい力を持っている」という言葉と、いくつかの学校を訪問して貧富の格差が教育の格差につながっている現実を見たからであった。教育がしっかりとなされていれば、日本と変わらない子供たちの姿に、ガーナの課題と未来への輝きが見えたように感じた。

ガーナの首都は日本と変わらない高層ビルとさらに発展していく希望にあふれていた。ガーナは素敵な国だよ！と生徒に伝えたいという気持ちが高まった。

（2）柱2「日本と訪問国とのつながりや同一性を理解する」という観点から

中国人に対して嫌悪感を抱いている一部のガーナ人からは、時に「Chainese」と冷たく感じる言葉を浴びせられた。しかし、日本人とわかると大変フレンドリーに笑顔を返してきた。ガーナを訪問して感じたのは、過去から現在にわたり、JICA ボランティアや専門家の方々がガーナで現地の人に好かれ、現地の人に寄り添って技術を伝えたり、インフラ整備をしたりしてきた事実であった。どのガーナ人も日本に対して敬意をもち、感謝している姿にとてもうれしくなった。

そしてやはり車。日本車がガーナを走る姿は日本を感じさせる大きなものであった。スマートフォンを持ってあるくガーナ人。サッカーが大好きで日本選手もよく知っているガーナ人。ファッションが大好きでオシャレにはまる若者たち。それとは対照的な田舎の素朴な雰囲気と温かさ。日本もガーナも同じだなあと感じる場面は多々あった。

（3）柱3「共通の課題について共に考え・共に越える」という観点から

いくつかの学校を訪れ、一番ショックだったのは学校による教育の格差があまりに大きかったこと。貧富の差がこんなにも教育格差を生むのかと心が痛んだ。教育の格差はさらなる貧富の差をつくっていくことは確かである。ガーナの発展のために、共に考えていきたい課題であると感じた。

多くの青年海外協力隊に「ガーナ人が日本に求めていること」をインタビューした。「ガーナの人にそれを聞けば必ずお金という。お金、お金、〇〇が足りない、そればかり。しかし本当にお金を支援していたら、ガーナ人はそれに依存してしまう」という返答であった。相手が求めていることを、そのまますることが本当の支援ではないと強く感じた。地球市民という広い視点から、その国の本当の自立のために、私たちが出来ることを考えていくことは簡単ではないが、考え続けていくことをやめてはいけないと感じた。

4. JICAの国際協力事業の「良い!と思ったところ」と「今後あるといいなと思う視点」

行く前の私は青年海外協力隊にあこがれつつも、まだきちんと技術が身につけていない若者を海外へ派遣することは税金の無駄使いだという思いが頭の片隅にあった。しかし、私が実際にガーナで見た青年海外協力隊は、皆たくましく、日本人として誇りをもって活躍している人ばかりであった。現地の人に寄り添い、自分に出来ることを精一杯やっているその姿は輝いて見え、日本に帰国してからぜひ紹介したいと思えた。

また、「JICAは青年海外協力隊」というイメージが強かったが、実際はJICAの支援を受けた様々なインフラ整備、日本の技術を惜しみなく伝えるJICA専門家、現地の日本人を支える調整員やスタッフなど様々な形の国際貢献があることを知った。残念なのは、それらのことが国内であまり知られていないことである。青年海外協力隊だけでなく、幅広く広報をしていくことでJICAの見方も変わってくると感じる。また日本は高齢社会を迎える。技術をもったシニア海外ボランティアの要請が少ないことは、とてももったいないことのように感じている。

5. 来年度参加する先生へのアドバイス（持ち物、必要な準備、学びの視点、注意事項など）

- ・とても涼しくて過ごしやすかったです。日差しも思うより強くなかったです。夜も長袖で寝ても暑くありませんでした。
- ・夏休みに入ってから授業や紹介写真、名刺の準備をしようと思っていたのですが、夏休みの初めは部活の試合や補習などで忙しく、大変でした。何事も早め早めに準備したほうがいいです。
- ・日本の学校の様子や日本を紹介する写真をA4サイズに印刷して持って行きました。いざという時にとても助かりました。
- ・夏休みなのに、わざわざ登校してくるガーナの子供たちや先生方のことを思うと、楽しむだけでなく、今後も生きるような授業をもっと考えてから行った方が良かったと思います。一期一会。
- ・青年海外協力隊の人へのお土産は一人いくらと決めて、日本食を大量に買ってあげるのが一番いいと思いました。現地の人へのお土産のお菓子は、日本らしいものより相手の人も食べやすいの方が喜ばれると思いました（「あんこ」や「のり」のついたものは苦手なようでした。もちろん日本の方は喜びました）。
- ・蚊の対策に、部屋用の電池式香取、虫よけリング、蚊よけミストを持参しました。

6. その他全般を通じての感想・意見など

はじめは「アフリカを見たい!」という気持ちだった研修が、知らない間にガーナで活躍する日本人に魅せられ、様々な人の生き方に感動をする研修となりました。出会う人、出会う人、本当にキラキラと輝き素敵な人ばかりでした。また、研修を共にした仲間、NIED・国際理解教育センター、JICA 同行者の方も、パワーと優しさにあふれ、私を支えてくれました。1年を通して行われる研修はとても大変そうに見えますが、スタートしてみれば、楽しく、得るものがたくさんあります。NIED・国際理解教育センターの伊沢さんからは学ぶことがたくさんあり、指導者研修だけでも、ぜひいろんな先生に受講してほしいと思います。

研修の終わりが全ての終わりではなく、研修の終わりが私のスタートのように感じます。

JICA、NIED・国際理解教育センター、ガーニアン、研修を共にした仲間へ感謝!!

以上